
TARF(アジア稲文化機構)の田
植え報告

2010. 6
秋吉祐子、増子隆子

不耕起栽培の試みを昨年から
始め、2年目の今年は8畝の田
圃を使って昨年よりも一歩進め
ることを意図しました。5月14日
に田植えをしました。苗を育てる
時期が今年は温度が低かった
ために田植えの時までにはなお
十分に育っていない苗を植える
ことになりました。不耕起栽培の
特徴またはメリットはウィキペデ
アが以下のようにコンパクトにまと
めております。

不耕起栽培は耕さないまま農作
物を栽培する農法です。
さまざまな作物、さまざまな形態
で行なわれており、耕起しない
ことにより以下の諸点が不耕起



田植え前の田圃



参加者の田植え

栽培のメリットとして重視されています。

- ・ 省力化が可能である(トラクタによる耕起、代掻きが不要)
- ・ 雑草の繁殖が抑えられる
- ・ 土の移動による病気の蔓延が抑えられる
- ・ 土中に根穴根構造が残り、根圏が酸化に残る。未耕起の土を根が突破り、稲に生じる植物ホルモ的な作用が活力高い太い根を作り、茎を太くする
- ・ 前作の作物残渣を地表に放置できることになり、その結果、それらが土壌のマルチとなって風雨による土壌流出を緩和できる

などのメリットがある。米国でより広く使われるようになってきており、2010年には米国の60パーセントの農地が不耕起栽培になると予想されている。



田植え終了後の田圃



田植え終了を喜ぶ参加者集合写真ー1

日本では岩澤信夫氏が米の不耕起栽培で有名人です。岩澤氏は1983年頃から手掛け、試行錯誤の中で難題をクリアし成功に導き、この優れた農法を普及させるため1993年に日本不耕起栽培普及協会を設立されました。当農法は自然や生態の循環を活用した農法でもあります。毎年開かれる「自然塾稲作り研修会」には全国各地から研修に馳せ参じています。その一人が戸邊秀治さんです。戸邊さんは新潟県十日町市の住人です。戸邊さんは横浜出身の脱サラで家族のために自給自足の農村生活を開拓された方です。TARFと同じ頃2002年から十日町市黒倉村落で0からスタートした成功者です。戸邊氏についてTVを始めメディアで紹介されたので、見学に伺いました。稲のあまりにも素晴らしい生育ぶりに感動してあのような稲を作りたいという感慨をもち、昨年からは真似事を始めたということです。TARFでは戸邊氏の不耕起栽培法の実践にははるかに及びませんが、今年は昨年よりも前進できるように努力したいと思っています。戸邊氏の米は味のスバラシさに感動した業者により昨年は1kg3,000円で販売されたと聞いています。

以下、今年春学期の田植え写真を少し添付します。



田植え終了を喜ぶ参加者の集合写真-2 秋吉ゼミ



戸邊秀治氏の美しい田圃 2008年8月